



『メディア心理学入門』

山本 博樹
流通科学部 助教授 共著
学文社



『日本の経営の変革
— 持続する強みと問題点』

三上 磨知
経営科学部 講師 共著
有斐閣



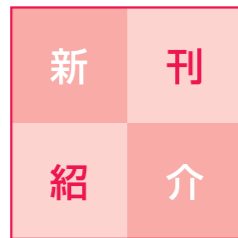
『ドイツの憲法裁判 — 連邦憲法
裁判所の組織・手続・権限』

有澤 知子
法学部 助教授 共著
中央大学出版部



『努力の天才 — 高橋尚子の
基礎トレーニング』

山内 武
法学部 助教授 著
出版芸術社



『21世紀のマラソントレーニング
— 成功への道しるべ』

山内 武
法学部 助教授 共著
ランナース



『変容する国際政治』

佐古 丞
国際学部 助教授 著
晃洋書房



『力道山と日本人』

L. A. トンプソン
国際学部 助教授 共著
青弓社



『流通ビジネスモデル
— 経営革新と情報システム』

著本 健二
企業情報学部 助教授 共著
中央経済社

大阪学院大学広報

L'horloge ロルロージュ No.120
February 2003

- 発行 大阪学院大学
大阪学院短期大学
- 編集 広報部

〒564-8511
吹田市岸部南二丁目36番1号
☎(06)6381-8434(代表)

URL
<http://www.osaka-gu.ac.jp>

編集後記

150年前にペリーの黒船が来航した。ある外国の教授によると、その後に起こった日本の開国と改革こそ当時のグローバリゼーションを象徴する出来事であるとのことである。私がこの意見を聞いたのは、日本がまだ長期不況の美感がなく、世界から経済的リーダーとして見られていたころである。残念ながら今日では、「日本病にかかるな」というのが世界の合言葉になっている。日本は過去の経済的成功の記憶にとらわれ、不況から脱出できないでいる。しかし、心強いのは学生諸君の態度だ。パプルの名残があったころは、学習にも就職にも受け身な学生を見かけないでもなかったが、最近では積極的に議論を交わし、明確に意見を述べ、卒業後も来学して元気に職場のことを語ってくれる人もいる。今こそ我々は、新たな開国と改革に取り組むべきではなからうか。

L'horloge

Osaka Gakuin University
Public Relations Bulletin

ロルロージュ No.120
February 2003

ESSAY
伊佐 健治

FOCUS
I-Chat Lounge

VOICE
司法試験必勝法

CAMPUS LIFE
CAMPUS NEWS DIGEST
INFORMATION
新刊紹介

『シベリア鉄道で』

劇作家の故岸田国土は、今から80年前のパリ到着時の感慨を次のように記している。「1919年1月10日、私は、ガール・ド・リヨンというパリの停車場に着いた。日本を離れたのが、前の年の7月末日であるから、約半年かかって、目的地に足を踏み入れたわけだが、その時、懐中わずかに16フランしか残っていなかった事を覚えている。」(岸田国土全集9、「時、所、人」、新潮社、昭30、P.58)

岸田のこの思い出に触発されるかのように、今私の目の前には、30数年前に私自信がパリの東駅に降り立ったときの様子が鮮やかによみがえってくる。私の場合、オーストリアのウィーンから夜行列車でドイツを経由し、パリの東駅に到着したのは早朝のことであった。早速地下鉄に乗ろうとメトロに向かったが、ストライキの真っ最中で入り口はバリケードで封鎖されていた。先々の生活費のことを考えるとタクシーなど拾う気になれなかった私は、重いスーツケースを引きずりながら目的地のカルチュラタンへ向け、駅を背にトボトボと歩き始めたのを覚えている。フランス留学に際し、日本からシベリアを経由しパリを目指した私が横浜を出港したのは、今から30年余り前の1971年10月のことである。まず、横浜から船でシベリアの港町ナホトカへと向かったのである。

歌日誌「光陰」に、今は亡き私の父は、そのときの見送りの様子を次のように詠んでいる。

「ソ連船離陸のブザー鳴れば船の息子なほも烈しく手を振りたり」

大学を卒業後、3年間の教職生活を突然辞し、フランス留学への転身を決めた息子。25歳を過ぎた息子に、「そろそろ結婚を、そして平穏な家庭生活を……」と願っていた親にとって、息子のこの決断は実に大きなショックであったに違いない。というのも、フランス留学といっても今とは状況がまるっきり異なるものだったからである。

「今年一年間で海外に行く日本人は1,664万人に上るらしい。総人口の1割以上にあたる数だ。ちなみに1970年に海外へ渡った日本人は66万人というから、30年余りでおおよそ25倍になった勘定である」と『「ロールロージュ」No.119 ESSAY「旅の醍醐味」』で外国語学部の島津先生も触れられているように、当時、海外へ渡る人は珍しく、それもハワイを中心とするアメリカ旅行が大半で、フランスに行ったことのある人など身の回りで見つけることすらできなかった時代である。先の父の歌には、父の息子に対する心配と、これからのフランスでの生活に不安の募る息子(私)の心情が読み取れるように思える。



60年安保闘争を高校1年で迎えた私の青春は、その後の学生運動の軌跡に沿って進んできたといえるかもしれない。そんな私がフランスという国に興味を持つことになったきっかけは、1968年のパリの学生闘争であった。学生だけがどんどん孤立し先鋭化していく日本の学生運動に対し、学生運動と労働運動が一体となって社会革命の流れを作っていたフランス。当時の私にとってフランスへの関心とあこがれは、シャンソンやフランスモードといったものに対してではなく、パリの学生闘争に象徴される社会運動そのものに対してであった。フランス留学を決意した当時の私には青春時代特有の思い込みが強く、振り返るとまるで革命家気取りの自分が恥ずかしくて冷や汗の出る思いであるが、いったん進みだした道を曲げるわけにもいかず、とにかく横浜を出港したのである。

さて、横浜を出て3日目の夕、船はシベリアの港町ナホトカに到着した。船上から見たナホトカは、幾人かのロシア人の乗組員家族が船を待ち受けるだけの実に閑散としたものであった。見送りの人でごった返した横浜の港に比べ、



伊佐 健治 流通科学部 教授
 担当科目：フランス語Ⅰ・Ⅱ、外書講読Ⅰ・Ⅱ
 趣味：ウォーキング
 著書：『シャルトル便り』(著)
 『異文化コミュニケーション論』(著)

なんとという殺風景な光景。夕暮れの町を家路に急ぐ人々の何かもの悲しげな後ろ姿。寒々とした薄暗い壁が家々を囲む。船を降り、シベリア鉄道の始発駅へと向かう私が目にしたナホトカの町は、実にうっそうとしたものであった。ナホトカの町から旧ソビエト国内を、列車と航空機を乗り継ぎモスクワへ、モスクワに2日間滞在の後、今度国際列車に乗り込み、ポーランド・チェコを通過して当時西側の窓口とされたオーストリアのウィーンへ到着した。

ウィーンに着いた私は、10日余り過ごした旧ソビエト、東欧圏内の窮屈な重苦しい雰囲気から一挙に解放され、何か明るい光に体が包まれたような気持ちになったのを思い出す。気分的に解放された私は、ここウィーンに数日間滞在することにした。滞在のウィーンのユースホテルでパリでの生活を終え、これから私とは逆のコースをたどって日本に帰るといふ、東京アリアンス・フランセーズの日本人の先生と出会った。私はこの人からパリでの生活情報をあれこれ必死で聞き出そうとしたことを覚えている。なぜならこの人は、私が日本で一度も出会うことができなかったフランスでの生活体験を持つ人だからである。この先生との別れ際、帰国する先生の後ろ姿を見て何かうらやましく思えたのは、自分の中でこれからのフランスでの生活に対する期待と、それとは裏腹の先への不安、さらにはこんな所まで来てしまったという後悔の念と、実に複雑に絡み合っていたからだと思われる。

そんな複雑な思いを胸に、ようやくたどり着いたパリの町。列車から降り立った私を出迎えたのは、冒頭にも述べた地下鉄のストライキであった。そのストライキも、当時日本でおなじみだった時限ストライキというような生易しいものではなく、もう1週間も前から続いているという無期限ストライキであった。ゼネラルストライキのまっただ中にパリに降り立ちスタートした私のフランスの住まいは、セヌの左岸、モンパルナス駅近郊の建物の最上階、いわゆる屋根裏部屋の一室であった。授業のあるソルボンヌの教室までは、交通費を節約して半時間の距離を歩いて通学。フランスでの貧乏学生生活は、このようにして始まった。1973年秋に帰国するまでの2年間、両親と直接電話をしたことは一度もなかった。国際電話そのものがほとんど普及していなかったこともあるが、料金が法外で私などにはとても手の出る代物ではなかったからである。

岸田が半年、私が2週間かけてたどり着いた最果ての都パリ。それが今は、関西国際空港から直行便に乗り込めば12時間後はすでにパリの空の下である。当時の私にとっては、これはまさに想像を絶する世界である。それでも人間とは実に欲の深い動物で、「機内での12時間は疲れる。早くコンコルドでも就航して、せめて半分の6時間で行けたらなあ……」などと考えるのである。

最後に、先日何かエッセイをと広報係から依頼を受けた私は、エッセイなどしたためようながらではないが、頼まれた以上は何とかせねばと材料を考えあぐねた結果、思いついたのが本エッセイである。テーマを思いついたまではよかったのだが、何しろ日ごろの整理下手がたたり、日記や手紙をはじめ当時の記憶を正確に呼び起こすものがほとんどなく、やっと見付け出した当時のアルバムを頼りに、このエッセイに向かったのである。横浜からパリまでの旅程をはじめ、記述に若干不正確な点があるかもしれないが、何しろ30年前の記憶ということでお許し願いたい。



FOCUS

I-Chat Lounge

What is I-Chat Lounge?

I-Chat Lounge (International Chat Lounge) は、平成14年6月10日に2号館にオープンしました。フリートーキングを目的とした、いわば学内の語学ラウンジで、学生が学内にいながらして外国語の練習ができるという画期的な部屋です。普通の語学教室との大きな違いは日本人同士でも外国語を使用するという事です。語学が上達してからでないとI-Chat Loungeに行けないと思っている学生もいるかもしれませんが、心配しないでください。I-Chat Loungeには、これから外国語を学ぼうと考えている学生、留学を終えて語学力を維持したいと考えている学生もいます。一緒に楽しみながら自由な空間で外国語に親しんでいただきたいと思います。



What you can do in I-Chat Lounge.

I-Chat Loungeでは、学生が空き時間や授業の後などに自由に立ち寄り、ネイティブスピーカーや留学生とも話すことができます。おしゃべり（チャット）をするだけでなく、以下のようなことができます。

- * 映画鑑賞
- * ゲーム
- * 読書（英字新聞、海外雑誌など）
- * 音楽鑑賞
- * コンピュータ、インターネット（英語バージョン）
- * I-Chat文化交流イベント（七夕、ハロウィン、クリスマスなど）

また、外国語を話すことに慣れるだけでなく、初めて出会った人とたとえ言葉が完全に通じなくても、様々な方法でコミュニケーションが取れるのだと感じていただきたいと思います。



利用者の声

私は初めI-Chat Loungeには外国語学部の人たちが利用するのだと思っていたのですが、ほかの学部の人たちもたくさんいたので驚きました。ここに集まる人たちは、外国語が好きで興味のある人たちばかりです。I-Chat Loungeを利用したいけど気まずい、入りづらいと思っている人がたくさんいると思います。私も始めはそうでしたが少しだけ勇気を出して顔を出してみてください。私たちは新しい仲間を喜んで歓迎します！



外国語学部 英語学科
1年次生
石川 真子



英字新聞（Japan Times, Daily Yomiuri, Weekly ST, Mainichi Weekly）、海外雑誌、小説、絵本などを読むことができます。

英語版のパソコンを2台設置しています。使い方に慣れておけば、海外に行っても安心！



I-Chat Cultural Event (アイチャット文化交流イベント)

国際交流の一環として、在学生・外国人留学生の文化交流イベントを行っています。ハロウィン・クリスマス・お正月などのイベントを通して、学生たちはお互いの文化を理解し交流を深めるとともに、さらなる外国語への興味を抱いたようです。



We will be...

I-Chat Loungeがオープンして8か月がたちました。私たちの予想をはるかに越え、現在多くの学生が利用していますが、今後より多くの学生にI-Chat Loungeを活用してもらえるよう充実したイベントを増やし、施設の充実を図りたいと考えています。

ご意見・ご質問がありましたら下記までご連絡ください。 i-chat@uta.osaka-gu.ac.jp

司法試験必勝法

— 座談会出席者 — (順不同)

<法学部長・司会>
<ゼミナール指導員>

<司法試験合格・高木ゼミナールOB>
<高木ゼミナール学生>
<高木ゼミナール学生>

南川 諦弘 教授
高木 多喜男 教授
田中 陽
唐松 涼
中村 真知子

[南川] 田中陽君。司法試験合格おめでとうございます。



法学部長・司会
南川 諦弘
法学部 教授

[田中] ありがとうございます。

[南川] 本学は昭和49年に法学部を開設したわけですが、29年目にして初の司法試験合格者が出ました。学生にとっても一つの目標ができましたので、大変な励みになるのではないかと思います。

最初に高木先生にお聞きしたいのですが、田中君は学生時代どんな学生でしたか。

[高木] 非常に特徴的だったのが、初めから目標がはっきりしていたことです。司法書士の試験を受けることは田中君が私のゼミナールに入ってくる前に聞いていましたが、目標がはっきりしているだけに、よく勉強していたのが分かりました。レポートでも期待以上の内容の報告をしてくれましたし、はっきりと的確な意見を述べてくれました。とにかく学生時代から非常に優秀でした。

在学中に司法書士の試験に現役で合格するというのは、並々ならぬ努力をしたからだと思います。司法書士試験に合格し、私の大学院の指導生の司法書士事務所就職することが決まっていたから、「実は司法試験を受けたいのですが、どう思いますか？」と相談がありました。そのとき、僕ははっきりした返事をしなかったと思います。

その理由は、司法書士は非常にいい仕事ですし、就職先も決まっているのに、それを捨ててしまうのはもったいないという気持ちが一つ。もう一つは、

能力があっても合格するとは限らない。この辺で適当に切り上げたらどうかと思っても、そのときには止められず、足を抜け出せないような気持ちになる。それで40歳近くになっても合格できないというケースを見てきたので、もし私の一言で先ほど言ったようなケースになってしまうと非常に責任を感じるものですから、はっきりとした返事ができなかったのです。

後から田中君に、内定していた就職先に相談したら「『3年間だけ時間をあげるの、その間に通らなかつたら、うちの事務所へ戻ってきなさい』と言われたので試験を受けます」と聞きました。それなら大丈夫だと思い「受けなさい」と言った記憶があります。

[南川] 高木先生は幸せですね。ゼミナール生の中に優秀な学生が一人でもいると、ゼミナールの運営がうまくいきますから。

[高木] 今日きてもらった二人も、決して田中君に引けを取らない能力のある学生ですよ。

[南川] 田中君の話聞いて、挑戦ということもありますよね。期待しています。高木先生のお話の中にありましたけど、田中君は在学中に司法書士試験に合格されたんですよね。司法書士の仕事も非常に魅力的ですが、それを辞めて司法試験に挑戦をしようと思ったのはなぜですか。

[田中] 司法書士の仕事ではどうしても登記に関係した仕事に限定されます。それ以上のことをするときには職業的な壁のようなものがあり、これを今乗り越えなかったらきっと後悔すると思ったからです。司法試験を受けることによって法律実務全般が扱えるようになればいいだろうなど。もし司法試験を受けるなら、これから先の人生

の中で今がいちばん受けやすいと考え、司法試験受験に踏み切りました。



田中 陽
司法試験合格
高木ゼミナールOB

[南川] 田中君は昨年、最終の口述試験で失敗して不合格になったそうですが、どんな失敗をしたか、聞かせてもらえますか。

[田中] 僕は民事系（民法と民事訴訟法）が得意科目だったんですね。民事系に関しては知識的にはおそらく受験生の10分の1以下（10人に1人が落ちるといわれている）には入らないだろうと思っていました。民事系の問題に関しては、自分が答えられなかったらほかの受験生もきっと答えられないだろうというくらいの開き直りで臨みました。しかし、口述試験で要求される内容というのは知識を答えるというのではなく、司法試験委員の先生、考査員の先生を相手にして会話が成立させられるかということが問われているようなのです。知識の有無にかかわらず、「この問題点について考えてみて」と問われたときに「こういうふうな問題点があるときにはこの制度を何とか解釈してとか、ほかの制度を流用して対処できるかもしれません」など、そういう形で先生と話をし、問題点について考えていくということが要求されているようなのです。知らなかったら「答えられません」というのではだめだそうで、その部分を去年は履き違えていたみたいですね。最終的に先生からほぼ一方的に試験を打ち切られました。

そのときは「まあ10人に9人が受かるから大丈夫かな」と思ったのですが、

やはりだめでしたね。

【南川】 考査員の先生というのはその道の権威ですからね。知識で戦おうとしてもかえってマイナス評価になるんですよ。だから対話が成立するような返答ができるかということだったと思います。それにすぐ気づいたということがよかったですよね。

得意分野でミスをしたのは残念でしたが、司法試験を受けて口述に進まれるかたにはよいアドバイスになりますよ。

次にこの機会にゼミナール生のかたから田中君に聞きたいことがあれば質問して下さい。

【中村】 司法試験というのはどのような試験だったのでしょうか。

【田中】 一言で言うのは難しいですけど、司法試験には「択一試験」・「論文試験」・「口述試験」があります。「択一試験」では基本的な条文の知識や論理的な思考方法を聞かれることが多いですね。憲法・民法・刑法各20問で合計60問あり、3時間半で解くのですが、いかに速く解くかというのが択一試験を受ける上での重要なポイントになります。10分かれば解ける問題もあるけれど、その分ほかの2～3問が解けなくなるということもあるので、見切りをつけていかに得点をとっていくか。時間配分や事務処理能力が試される試験です。

「論文試験」というのは基本的には出題された問題について法律的な問題を自分なりに指摘し、論点についてどう解釈して論を進めていくかということが問われ、この論文試験がいちばん総合的な知識力や理解力、文章構成力を必要とします。司法試験の受験対策はほとんどが論文試験に費やされているような気がしないでもないです。

「口述試験」は先ほども出てきましたが、法律家として活動するうえで相手と話をすることは必要不可欠です。普通の法律家としての対話ができるかどうか、基本的な知識が足りない人を省くために用意されている試験で、ほとんどの人が合格しますが、ふさわしくないと判断された人は「頭を冷やして下さい」。

【唐松】 論文試験について詳しく教えてください。



唐松 涼
高木ゼミナール学生

【田中】 科目は憲法・民法・商法・刑法・民事訴訟法・刑事訴訟法の6科目あり、各科目につき2問ずつ出題されます。2時間で答案を仕上げるのですが、この論文試験も時間が全く足りません。考えればすごく難しい問題(12問の中で4問ほど)が毎年必ず出題されます。そのときにいちばん要求されるのは答案の書き方です。このような問題では、自分の持っている法律の知識をどのようにして論理的に説明して処理していくのかということが問われます。

【唐松】 科目についていろいろ教えてくださいました。

【田中】 なかなか難しい質問ですね。実は配点はすべて一緒なので全部が重要ということになってくるのですが、あえて挙げるとしたら、民法ですかね。

よく「民法を制するものは司法試験を制する」といわれます。民法は条文数がいちばん多く、問題もいろいろな形で出題されるんですね。憲法などは、

例えば人権の問題であればどの人権が問題となっていて、基本的に制約原理・違憲審査基準の定立・あてはめ・結論という一つの形があります。一概には言いきれませんが、刑法などでも刑法各論・総論で区別でき、答案の形も基本的に決まっていたりするのですが、民法は刑法各論で要求されているような要件の当てはめが聞かれたり、基本的な原理から聞かれたり、いろいろな形があります。そういう意味で民法が難しいですね。

択一試験・論文試験・口述試験全部を通じて問われるという点でも民法が結構重要なのですが、一般的に受験生は憲法に特に力を入れていますね。やはり憲法・民法、この2科目が重要でしょうか。

【高木】 配点はみんな同じですからね。民法だけ特にできていても、ほかが悪かったら合格できないからね。



ゼミナール指導員
高木 多喜男
法学部 教授

【南川】 「民法を制するものは司法試験を制する」と私も思います。それは司法試験だけでなく、公務員の採用試験でもいちばん大事ですよ。

【高木】 民法をしっかり勉強することによって法律的な物の考え方が身につく、ほかの法律の習得も早いということはいえると思います。

【田中】 そうですね。勉強して思ったのが、民法的な物の考え方で結構いろいろな科目に対応できるのかなと。

【中村】 司法書士や行政書士に比べると司法試験は難しいと思いますが、専門学校などに通って勉強しなければ合格は難しいですか。

【田中】 これも難しい質問ですね。専門学校を利用できるなら、それがいいと思いますが、専門学校に行ったから合格するものでもないと思います。答案の書き方などは専門学校で勉強できるのですが、論証の仕方などを一方的に覚えるだけでは、十分に司法試験の問題に対応できないんですね。そういう意味では専門学校を利用して、知識を整理し直すということはそれなりの意味があると思います。ただ、利用できなかったとしても基本的な知識の整理などは十分対応できるのです。あとは試験に対するコツを知るうえでは専門学校を利用できるといいですよ。

【南川】 田中さんは専門学校に通っていましたか。

【田中】 はい。平成11年から平成13年度の本試験を受験するまで通っていました。

【高木】 予備校に通っていたらいろいろな情報が入ってきて、それが大変役に立つのだと聞きましたが、その点はどうでしたか。

【田中】 僕はあんまり受験仲間を作らなかったです。専門学校の勉強の仕方があまり合わなかったところがあって、違う勉強の方法を取っていたんです。さすがに口述試験のときはもう少し情報を集めればよかったと思ったのですが……。司法試験に関しては「どの先生が問題を作る」といったうさも多少飛んでいて、それは結構参考になりましたね。

【南川】 私の友人で司法試験の考査員をやっている人の話を聞いたのですが、最近の受験生は間違えるところまで同じだと言うんですね。専門学校に通って、テキストを暗記するような形で勉強しているので、点数に差がつきにくいと。

【田中】 司法試験の受験指導校でよく「過去問題の模範解答をとりあえず覚えなさい」と指導されます。それを何回も繰り返し見ることで、答案の形やその中に書かれている法律の論点を覚えていくということなのですが、たいていの受験生はそれを丸暗記するんですね。するとその問題が出ると対処できるのですが、少しでもひねられると対処できないんですよ。これではだめだと思ったので、途中から基本書といわれる本に勉強を切り替えました。講義を受けてある程度の下準備をしてから基本書を見直し、自分なりの論証ができるようにしていましたね。

【南川】 実際に扱う事件というのは千差万別で、マニュアル通りにいかないわけですよね。マニュアルをしっかりと覚えて試験に合格した人では応用がきかないから、実際にはいい仕事はできないと思います。その点では、田中君の勉強方法は、よかったと思います。

【中村】 40歳になっても合格できないという人がいる中で、田中さんはお若くして合格されました。司法試験を勉強している人は一日中ずっと勉強しているイメージがあるのですが、田中さんはどれくらい勉強されたのでしょうか。



中村 真知子
高木ゼミナール学生

【田中】 実際計ったことがないので分かりませんが、勉強はよくしたほうだと思います。専門学校の自習室は朝9時から夜9時まで開いているのですが、論文試験の直前は朝9時に行き夜9時に帰っていました。それ以前は朝起きられないこともあり、11時ぐらい

に行くところがあったこともありましたが。去年の論文直前期で10～11時間くらい、ふだんは7時間～8時間勉強していました。

【南川】 日曜日もしっかり勉強しているの。

【田中】 そうですね。睡眠時間と食事時間以外はだいたい勉強していました。

【高木】 合格した人の中にはいい格好をして一日4時間とか言う人もいますが、それはあまり間に受けないほうがいいと思います。それに勉強をする期間なんてせいぜい4～5年ででしょう。これからの長い人生を考えてください。わずか4～5年苦勞をするだけで理想の職業に就けるといえるのはいいことですよ。

【唐松】 少し聞きにくいのですが、勉強中も息抜きはしますよね。友達やガールフレンドと遊んだりすることはありましたか。

【田中】 友達とは年に5～6回ぐらいならありました。ガールフレンドは特にいなかったの。この質問には困りましたね(笑)。

そのほかに、ビデオを見たり、本を読んだり、家でごろごろしたりしていました。他の受験生の中には踊りに行ったり、スポーツに行ったりする人もいましたけど。

【高木】 気分転換は必要だからね。【中村】 気分転換しているときもやっぱり勉強のことが気になったのでしょうか。

【田中】 気になりましたね。気分転換していることになってないですよ(笑)。

【高木】 法律の本を読んでいなくても、頭の中に浮かんでくるといった状態だね。そのぐらいいならないと合格する

ことはできないのです。今の司法試験合格者の平均年齢が、27歳ぐらいかな。中には現役で通る人もいますが、簡単な試験ではない。しかし苦労しただけの果実が大きいですよ。

【南川】 4月から司法修習がスタートしますが、終わったあとの方向に進む予定ですか。

【田中】 まだはっきりと決めていないんですよ。弁護士が向いているかなと思うのですが、検察官も考えています。ぜいたくな悩みですが……。検事でも刑事事件を扱う検事ではなく、訟務検事とか。最近は検事を希望する人も増えているみたいですね。僕の周りでも検事か弁護士で迷っている人や、最初から検事志望の人が結構いますね。推理小説を読んで検事を志望したとか言っている人もいます。どこまで本当か知りませんが……。

【南川】 学生時代印象に残る科目・授業というのはどういったものがありますか。

【田中】 高木先生がいらっしゃるからという訳ではないのですが、ゼミナールがいちばん勉強になりました。

【南川】 最後に後輩に対してメッセージやアドバイスがあればお願いします。

【田中】 学生のころはいろいろなことができるんですよ。遊びに行ったり、旅行に行ったり、サークル活動を一生懸命やろうと思えばできるし……。

けれども、学生がいちばん勉強しやすい環境にいると思うのです。僕が勉強を始めたときはもう社会人だったので「学生ならすぐに質問にいけるのにな、これ聞きたいな」ということが結構あり、うらやましいと思うことが多々ありました。

将来何か考えていることがあれば、

勉強も一つの選択肢の中に入れて考えていただければと思います。

【南川】 田中君は勉強というのを遠慮がちに選択肢の一つと言いましたが、おそらくメインに考えておられたと思います。在学生に対して司法試験の受験をお勧めしますか。

【田中】 僕が大学に入って「司法試験ってどんなのだろう」と先輩に聞いたとき、「何を考えてるの、受かるわけがないから、やめたほうがいいよ」と言われたんですね。司法書士についても一緒です。それでいったんはあきらめたのですが、「どうして人に言われたくらいでやめるのだろう。こんなことでやめたらばかばかしすぎる」と思い、2年次生のときから勉強を始めました。

難しい試験ではありますが、決して

受からない試験ではないと思うのです。びっくりするくらい頭のいい人はいますが、彼の周りにいる人間に聞くと「彼は勉強量が違う」と言うんですよ。今年僕の友達で1回で合格した人がいますが、彼もすごく勉強していました。頭が良いといわれている人間ほどすごく努力しているんですよ。その努力の積み重ねが違うから短期間で合格するのです。決して「自分は頭が悪いからだめだ、あの人は頭のできが違うから司法試験なんかだめだ」という発想は間違っていると思います。

確かに苦しい試験ですけど、やって絶対結果は出せると思うのです。もし受験を考えているのであれば、ぜひ頑張ってくださいと思います。



CAMPUS LIFE

人形劇活動を通して



外国語学部
ドイツ語学科 4年次生
小林 宙子

SPOT

私は、大学に入学してから4年間人形劇の活動をしています。4人のメンバーと結成した「グループ☆たまご」は、人形劇経験の浅かった私たちが「何を作り出すことができ、何が生まれてくるのかわからない」という期待を込めた名前です。私たちは、大阪市立こども文化センターに所属しており、幼稚園や地域サークル・小学校からの依頼で月に3〜4回公演しています。お楽しみ会・誕生日会・クリスマス会へ参加し、人形劇・パネルシアター・手遊び・歌・ゲームなどを子どもたちの年齢や人数を考慮して、30〜60分で構成します。現在では、キッズプラザ大阪や枚方人形劇フェスティバル、中央図書館、その他私たちの活動を知ってくださった方から依頼を受けるようになりました。私たちの「人形劇」は、オリジナルの物語から台詞を作り、それに見合った人形までをすべて自分たちで作りに上げていきます。一つの作品が完成するまで何度も練習し、自分たちが納得するまで続けます。これまでの活動で経験した人形劇を食い入るように見つめる子どもたちの目・笑い声・終演時の拍手・寄せられた感想は、私たちの向上心を支え続けてきたいちばんの原動力であったと思います。人形劇は絵本やアニメとは異なり、実際に存在する異空間を作り出すことができます。演じる側は登場人物になりきり、空間全体を変えていきます。それが子どもたちにとって、印象深く、いい経験になることを願って活動してきました。



平成14年8月4日には大学の「夢を実現させよう」という企画で奨励金をいただき、『いいだ人形劇フェスティバル』に参加することができました。これは長野県飯田市で毎年8月に4日間かけて行われる日本最大の人形劇の祭典で、日本中から人形劇活動をしている人々や観客が集まり大変にぎわいます。市内の建物、商店街や道路までもが舞台となり、朝早くから夜は12時近くまで人形劇を上演します。私も色々な人と交流する機会を持つことができ、大変勉強になりました。人形劇といっても様々な表現ができる幅広いもの



だと再認識し、新作の人形劇にはその新しい表現を取り入れています。岸辺祭では開会式で上演し、参加してくれた子どもたちから大変好評をいただきました。それがきっかけとなり、「坂本っちゃんのラジオ」で大阪学院大学の紹介役を務める機会もいただきました。また、子ども好きから転じて、ボランティアでサマーキャンプのリーダーや、スキー講習の指導員を務めたことも、良い経験になったと思います。人形劇を続けていなければ出会う機会のなかった人々や経験できなかったことは数えきれない程あり、もしそれがなければ、今の私はなかったはずです。

人形劇を始めたきっかけは友達に誘われてというもので、興味本位からでした。それが、ここまで入れ込むことになるとは自分でも想像していませんでした。人

前に出て演技すること自体初めてだった私がここまでできるようになったのは、周りのかたがたのおかげだと心から思っています。メンバーはそれぞれの意見を主張しながらも、よく話し合い、互いの個性を尊重し合えるという素晴らしい関係であること、また人形劇を理解し、私を応援してくれる家族や友人たちに恵まれていたということにも感謝しています。だから決してこの経験を思い出だけで終わらせることはできません。この先、私を導き、そして支え続ける力となることと信じています。これからも常に向上心と笑顔を持っていきたいと思っています。

新春夢トーク

1月25日(土)に2号館地下1階02教室にて「新春夢トーク」を開催しました。今回で8回目を迎えるこのイベントは、学生生活の中でチャンスを生かしながら、「夢」に向かって努力している学生に話を伺うというものです。在学生4人と、本学から初めて司法試験に合格した卒業生に、それぞれの体験談を語っていただきました。当日は在学生・教職員だけでなく一般の高校生など約170名が夢と希望に満ちた話を熱心に聴き入っていました。以下は5名のトーク内容です。



アカペラを通じた音楽活動

私は今から7年前にアカペラを初め、昨年フジテレビの番組「力の限りゴーゴーゴー」の「ハモネプ」というアカペラのコーナーに出演しました。アカペラは私が始めたころはかなりマイナーな音楽でしたが、現在はこの番組のおかげでだれでも知っているものとなりました。アカペラのイメージといえば宗教とかクリスマスソングを思い浮かべられると思いますが、その通りで、アカペラの語源は、“as Chapel”もしくは“at Chapel”といわれ教会で歌われる音楽です。教会音楽は無伴奏のものが多く、時を経て無伴奏の音楽のことを「アカペラ」と呼ぶようになりました。アカペラはジャンルではなく演奏形態なので、ジャズやJ-POPあるいは演歌でも無伴奏で歌えば「アカペラ」と呼ばれます。私自身もアカペラでは楽器を使わなければ何を歌ってもいいと考え、いろいろなジャンルに挑戦してきました。

アカペラの魅力は人の声だけで演奏を行うことにあります。声というのは、その人の性格や人生が伝わってくるもので、その思いが伝わったときの喜びが、私がアカペラに引かれた理由です。

私はアカペラの中で長年プレイヤーとしてテレビに出演したりイベントに参加してきましたが、もう一つの顔としてイベントプロデューサーの仕事をしてきました。イベントには出演バンドを探したり、会場を押さえたり、当日の調整をするイベントプロデューサー（イベンター）という人物が必要です。私がこのイベンターを仕事として意識したのは、大学2年次のときに関西アカペラジャンボリー「KAJa! (カジャ)」という催しに携わったときのことでした。「KAJa!」というのは日本最大のアカペライベントで毎年5月に開催され、3年間その実行委員としてイベントの運営に携わってきました。「KAJa!」は関西の各大学のアカペラサークル部員たちをメインに構成し、学生ボランティアによって運営しています。資金がなく、交渉相手はプロなので難しい面もたくさんありましたが、イベント当日の感動が忘れられず、イベンターになりたいと思いました。しかし、参考になる資料もなく、またイベント業界は即戦力を要求されるため、新卒者の採用も全くありませんでした。そこで私が思いついたのは「KAJa!」を開催するときにお世話になった広告業界でした。イベントを運営するために広告はとても重要なもので、広告とイベントの結びつきというのは大変近いことに気づき、視野を広げて広告会社を目標に就職活動をしました。将来イベンターとして活躍するために、協賛広告のノウハウがあったほうが必ずプラスになると活動を進めていくうちに、運よく私の考えを認めてくれる会社があり4月からお世話になることになりました。目標とする業界以外に就職するのは遠回りになるような気がしますが、逆に考えて新卒で業界に入って働くよりは、一度別の社会で色々な経験をしたほうが自分のためであり、イベンターになるための過程としてよい選択であると思っています。

私には将来、一つの大きな夢があります。それは世界各地から様々なジャンルのバンドが集まってもらい「世界アカペラフェスティバル」を開催することです。これは大きな夢のようにも思われますが、私自身としては決して実現不可能なことではないと思います。まだまだ日本でのアカペラというのはポピュラーではなく実現には何年かかるかわかりませんが、「KAJa!」のような大きなアカペライベントやライブを通じて市場が拡大し日本の中でアカペラが成熟すれば、必ず実現できると信じています。



国代 哲
経済学部4年次生

映像作家を目指して

私のテーマは「映像作家を目指して」ですが、今日はあえて映像やコンピュータグラフィックに関するよりも、自分が大学に入学してから、何を考え行動してきたかを中心に話したいと思います。

私は、以前からグラフィックデザイナーになりたいと考えていました。そして、念願がかない4月から京都のデザイン事務所への就職が決まりました。私は出身高校も普通科ですし、所属学部も国際学部でグラフィックとは何の関係もありません。デザイン関係の仕事に就くにはそれなりの専門学校を出る必要があるように思われがちですが、今はそのような時代ではないと思います。私の場合は全くの畑違いですが、やる気があればできるものだと思っていました。本学にはスポーツ推薦で入学し、バレーボール部で日々練習に励んでいましたが、いつのころからか「将来バレーボールで生活して行けるか」と悩み、結局3年次で退部しました。ですから、本格的に映像グラフィックにのめり込んだのはここ2・3年です。専門書を読んだり、近所の洋服屋が新聞広告を出すという話があればデザインを担当させてもらったりと、あらゆる機会を勉強の場として活用しました。このころから特に根拠はなかったのですが、自分は絶対にこの道でプロになるのだと確信に近いものを持ち始めていました。

皆さんも、様々な夢を持っていることと思います。しかし夢は変化していきます。これが面白いのです。周りの人からは性格的に何をやっても続かないといわれましたが、パソコンと出会いコンピュータグラフィックを始めてからは、本当にのめり込み、一生続けたいと思いました。バレーボールの練習がつらく逃げ出したいと思ったことはありませんが、映像作りに関しては何時間やっても苦痛にならないのです。数学は嫌いだったのに、パソコン上で繰り広げられるグラフィックの関数はなぜか楽しくて仕方がなかったのです。

私から皆さんに伝えたいのは、大学の環境をもっと活用してほしいということです。この大学には私の大好きなパソコンが至る所にたくさんあり、自由に使うことができます。私はパソコンを購入する際、思い切って『夢を実現させよう』という大学のプログラムに応募しました。それに合格し大学から奨励金をいただき、高価なパソコンを購入することができました。このキャンパスには、やる気があればできることがたくさんあります。肝心なのは一人ひとりがそのことに気づくかどうかです。キャンパスにこれほどたくさんのチャンスがある大学はほかにはないと思います。学内の施設もとても充実していますが、先生も著名な方がたくさんおられ驚きました。授業料が高いと感じるかどうかは、この環境をどれくらい活用するかにかかってくると思います。最近学生の一部にモラルやマナーの欠如した人が見受けられます。後輩の皆さんには、自分自身の「価値基準」を一段上げていただきたいのです。価値基準を上げれば、周りに見えるものが違ってきます。講義を受けるにしても、学生食堂で食事をするにしても、通学するにしても、すべての風景が変わって見えます。今まで楽しく友人たちと会話していた内容に物足りなさを感じるのには、自分が成長している証です。私にとってこの大学は「一流大学」であり、私はどこでも自信を持って「大阪学院大学の学生です」と言えます。皆さんもこの環境や先生がたをいい意味で大いに「活用」してください。そして、卒業後も自分たちが本学の卒業生だと胸を張って言えるような大学にしてください。



谷田 光晴
国際学部4年次生

和太鼓の世界

私は小学校1年のときから、地元大阪の福島天神祭でだんじりばやしに参加しています。昨年の秋、縁があって歌舞伎俳優の中村勲九郎さんから声をかけていただき、大阪で開催された『平成中村座大阪公演』の歌舞伎舞台にも出演させていただきました。公演は1か月間続きましたので、仲間でローテーションを組み、無事終えることができました。この公演で、歌舞伎役者のかたがたとの交流を通じて、多くの貴重な体験をしました。



今からここで太鼓の演奏をさせていただきます。皆さんには太鼓の魅力を少しでも知っていただけたら幸いです。

《和太鼓実演》

なお、今年の6月には東京で開かれる『平成中村座東京公演』への出演も決定しました。そこでの新たな出会いと経験を期待しています。



本庄 良光
経済学部2年次生

フィンスイミングの魅力

私はフィンスイミングという競技とその魅力・歴史について話したいと思います。フィンスイミングという競技を知らないかたも多いと思いますが、これは長さ50cm・幅80cmのモノフィンと呼ばれる巨大な足ひれを履いて泳ぐ競技です。種目は50M・100M・200M・400M・800M・1500M・リレー種目、そして海で泳ぐオープンウォーターがあり、大会もアジア大会・日本選手権・世界選手権と幅広くあります。泳ぎ方には、潜水で泳ぐ「アブニア」・シュノーケルを付けて泳ぐ「サーフィス」・空気ボンベをつけて泳ぐ「イマージョン」の3種類があります。

フィンスイミングは、魚のように泳ぎたいという人間の欲求から生まれたもので、紀元前885年ごろにまでさかのぼり、1950年代にスキューバダイビングとともに発達し、1970年代に当時のソビエトでモノフィンが発明されました。泳ぎ方はイルカのように身体をくねらせて泳ぎます。

私はもともと競泳の選手として頑張っていました。そのときアルバイト先のプールでフィンスイミングをしている人を見つけ、その人に頼んでトライさせてもらい、その速さに取りつかれました。フィンスイミングの魅力はスピード感と水中での水を切る音です。例えば、世界最高峰のイアン・ソープ選手が100Mを50秒ぐらいで泳ぐところを、モノフィンをつけると33秒で泳げることになります。国際大会も頻りに開催されていますが、国内における競技人口は3,000~4,000人とまだまだ少ないです。

私自身、先日試合（短水路選手権）で3位に入賞し、次は日本選手権での表彰台を目指しています。それが達成できると、アジア大会や世界選手権も見えてきます。

今日の私の話で一人でも多くのかたにフィンスイミングの存在を知ってもらい、関西はもとより日本国内での競技人口が増えるよう、私自身も頑張りたいと思います。



松廣 宜恵
国際学部3年次生

司法試験合格

私は昔から漠然と法律家になりたいと考えていました。学生時代には司法試験ではなく、まず司法書士になるための勉強をしました。幸い、司法書士の試験には大学4年次のときに合格し、大学卒業後一年は実務に就いていました。しかし、司法書士の仕事を続ける中で、自分が本当にやりたいことに対して実際にできることの限界を感じ、仕事を辞めて改めて司法試験の受験に挑戦しました。

司法試験を目指して勉強している人の多くは、いわゆる有名大学の卒業生ばかりでした。周りからもそのことについてとかく言われがちで、そのことに抵抗を覚え一生懸命努力しました。司法試験に合格しましたがまだ法律家になれたわけではなく、あくまで自分の夢に向けての第一歩に過ぎないと思っています。

現在は、実際の刑事事件についての裁判を傍聴させてもらうなど日々勉強しています。皆さんの中にも、将来法曹三者になろうと考えている人もいると思いますが、学生時代から勉強を始められたほうがよいと思います。有名大学の学生も法学の勉強を始めるのは大学に入学してからですし、皆同じスタートラインに立つという意味では条件は同じです。

本学には著名な先生が多く、法学を勉強する環境があります。私も入学後に高木多喜男教授のお名前を知り、こんな著名な先生がおられるのかと驚き、先生に熱心にアプローチしてゼミナールに参加させていただきました。司法試験に限らず、司法書士や行政書士になりたいと考えている人は、社会人になってからよりも、今この環境の中で勉強することをお薦めします。



田中 陽
法学部法律学科
平成9年度卒業

CLUB ACTIVITIES

CLUB ACTIVITIES

アメリカンフットボール部

私たちアメリカンフットボール部は1部昇格を目標に日々頑張っています。その目標へ向けて挑んだ2002年度リーグ戦は、残念ながら2位（4勝1敗）とあと一歩及びませんでした。

来シーズンはその目標を勝ち取るため、現在は体づくりを中心とした基礎トレーニングに励んでいます。我がクラブの特徴は一人ひとりの個性が強く、明るさも絶えないということです。個性の強さが試合や練習になると各自の長所が結びつきチーム力が倍増します。

私たちは選手・スタッフが誰一人として欠けては成り立たないクラブです。来シーズンもご声援のほどよろしくお願いいたします。



私たち、アメリカンフットボール部の目標は2部で優勝し、1部に昇格することです。私たちの所属するリーグには、昨年度1部リーグに在籍していた降格してきたチームや、3部リーグから昇格し勢いのあるチームなど、様々なチームが揃っています。しかし、そのような混沌とした中でも、何事にも動じず勝利をつかみたいと思います。

来シーズンのBlue Phoenixにご声援のほど、よろしくお願いいたします。

法学部 法政策学科 3年次生 斎藤 憲義(主将)



マネージャーの仕事は、選手が最高の環境で練習ができ、ベストな状態で試合に挑めるようにすることです。例えば、選手の飲料水を作ったり、けがの手当てをしたりと簡単なようにも思えますが、一人ひとりの体調管理やその選手にあったテーピングなど、毎日の変化に対応しなくてはならない大切な仕事です。大変な仕事ですが、その分試合で勝った選手たちの喜ぶ顔を見たときは、何ものにも代えられないような気持ちになります。

今シーズンはリーグ優勝を逃しましたが、来シーズンこそはリーグ優勝をし、1部に昇格できるよう選手と共に頑張りますので、ご声援よろしくお願いいたします。

外国語学部 英語学科 3年次生 一田 美紗希(マネージャー)



体育会系クラブ

クラブ名	日 程	行 事 ・ 大 会 名	場 所
合気拳法部	3月下旬(未定)	愛知県硬式空手道選手権大会	枇杷島スポーツセンター
アイスホッケー部	3月15日(土)~23日(日)	関西学生氷上競技選手権大会アイスホッケー競技会	臨海スポーツセンター、高槻Q2スケートリンク ほか
	4月中旬~下旬(未定)	大阪谷カップ	上野芝アイススケートリンク
アメリカンフットボール部	5月17日(土)	西日本学生アメリカンフットボール大会	長居球技場(対 京都産業大学)
空手道部	3月中旬(未定)	神戸市空手道選手権大会	未定(県立文化体育館)
	4月上旬(未定)	川西市大会	川西市立総合体育館
	3月30日(日)~	全関西学生空手道選手権大会	未定
弓道部	3月下旬~4月(未定)	関西学生弓道新人戦	各大学弓道場
剣道部	4月(未定)	大阪学生剣道選手権大会・大阪学生剣道女子選手権大会	未定
硬式庭球部	3月19日(水)~28日(金)	関西学生地域テニストーナメント	各大学テニスコート
	4月中旬(未定)	関西学生春季テニストーナメント(予選)	各大学テニスコート
硬式野球部	4月上旬~5月下旬(未定)	関西六大学野球連盟春季リーグ戦	西京極球場・南港球場 ほか
ゴルフ部	3月18日(火)・19日(水)	Dr.Donnis Thompson Rainbow Wahine Golf Invitational	KANEIHE KLIPPER GOLF COURSE (Marine Corps Base,Hawaii)
	4月7日(月)	関西学生男子連盟杯予選	能勢カントリー倶楽部
	4月21日(月)・22日(火)	関西学生女子連盟杯	フォレスト三木ゴルフ倶楽部
	4月16日(火)~18日(金)	関西学生男子連盟杯	城陽カントリー倶楽部
サッカー部	4月6日(日)~5月11日(日)	関西学生サッカー春季リーグ	各大学グラウンド
柔道部	4月(未定)	吹田市長杯	洗心館
女子バレーボール部	4月~5月(未定)	関西大学バレーボール連盟春季リーグ戦	各大学体育館
スキー部	3月7日(金)~12日(水)	関西学生スキー選手権大会	野沢温泉スキー場
ソフトテニス部	4月下旬(未定)	関西学生ソフトテニス春季リーグ戦	未定(福知山)
日本拳法部	4月(未定)	日本拳法和歌山県大会	未定
	4月(未定)	西日本学生拳法選手権大会	未定(大阪府立体育館)
バスケットボール部	4月9日(土)~5月5日(月)	関西学生バスケットボール選手権大会	東淀川体育館・各大学体育館
ハンドボール部	4月上旬~(未定)	関西学生ハンドボール春季リーグ戦	未定
バレーボール部	4月~5月(未定)	関西大学バレーボール連盟春季リーグ戦	各大学体育館
フェンシング部	4月下旬(未定)	関西学生フェンシングリーグ戦	大山崎体育館
洋弓部	4月6日(日)~5月3日(土)	関西学生アーチェリー連盟リーグ戦	各大学アーチェリー場
ラクロス部	3月(未定)	出稽古カップ	未定
陸上競技部	3月9日(日)	京都シティハーフマラソン	平安神宮前
	4月(未定)	大阪インターカレッジ	万博競技場
	4月(未定)	京都インターカレッジ	西京極競技場

※現在未定の行事・大会につきましては、随時詳細が決まり次第ホームページでお知らせします。
http://www.osaka-gu.ac.jp/new_club/report/index.html

保健センターだより

眠れないあなたへ

快適睡眠法

様々なストレスから逃れられない現代において、不眠の悩みを抱えている人は多いようです。「朝起きるのがつらい」「昼間眠くてたまらない」「夜なかなか眠れない」など、睡眠に関する問題を抱えている人はおよそ5人に1人といわれています(国立精神・神経センター、(財)健康づくり事業財団調べ)。脳と身体にとって、睡眠は大切な充電方法です。勉強をしたり、仕事をしたり、一日の生活を支えているのは睡眠なのです。一日を快適に気分よく過ごせるよう、自分に合った質のよい睡眠を取りましょう。

寝つきを良くするために……

寝室の環境づくり

- 温度は、夏なら24~26℃、冬は12~14℃、湿度は50%前後が理想的です。
- 一般に、柔らかすぎる敷布団、重すぎる掛け布団、高すぎる枕は寝づらいので避けましょう。
- 就寝3時間前は、照明を暗めにしましょう。強い明かりの下で過ごすすと目がさえてしまいます。

昼夜にメリハリをつける

- 昼間にたっぷり日光を浴びて体を動かすなど、昼夜のメリハリを心掛けましょう。
- 運動習慣のある人は「ぐっすり眠れる傾向にある」と、全国調査でも明らかになっています。

寝つけなくても悩まない

- 「寝つけなかったらどうしよう？」などと考え始めると、それが心理的ストレスとなって、ますます眠れなくなります。「横になっているだけでも疲れは取れる」と考えて、焦らないことです。

さわやかに目覚めるために……

眠りには、脳も筋肉も緊張を解いた深い眠り(ノンレム睡眠)と、無意識のうちに眼球が動き夢を見る浅い眠り(レム睡眠)の2種類があり、90分をワンサイクルとして、一定のパターンで一晩のうちに5サイクルほど繰り返すといわれています。このリズムの中でも、レム睡眠の浅い眠りのときには脳が起きるための準備をしているため、すっきりと目覚めやすくなります。つまり、「睡眠時間が90分の倍数になるように起きると、比較的すっきりと目覚めることができる」ということになります。

就寝前のリラックス

- 入浴して体が温まると、眠りを促進させます。お湯の温度は40℃くらいが最も眠りにつきやすいことがわかっています。
- 静かな音楽を聴いたり、アロマテラピーを利用するなど心をリラックスさせましょう。特に、ラベンダーの香りには鎮静効果があります。

就寝前にしてはいけないこと

- 睡眠中に消化器官が動くと、熟睡を妨げます。また、コーヒーや紅茶、ココアなどに含まれるカフェインは眠気を妨げます。就寝前の飲用に気をつけましょう。
- 寝る直前まで仕事をしていると、交感神経から副交感神経へのスイッチの切り替えがうまくいかず、心身の緊張状態が続いてしまいます。また、パソコンやテレビの画面から発せられる強い光も、深い眠りを妨げる原因になります。



CAMPUS NEWS DIGEST

INFORMATION

March ~

第1回「デジタル絵日記」コンテスト表彰式



〔11月9日(土) 2号館地下1階04教室〕

外国語学部 R.A.タニモト助教授が夏休みの宿題として出した「デジタル絵日記」に、大阪府立吹田東高等学校と大阪学院大学高等学校の2年生約400人が取り組みました。両校の生徒は1学期に本学で行われたR.A.タニモト助教授によるデジタルストーリーの作り方とパソコン実習を受講しました。高・大連携を目指して実施したこのコンテストの表彰式では、5人の受賞者による作品の発表も行われました。写真左は2等賞に選ばれた河江由紀子さん(大阪学院高)、右はグランプリ賞の相楽玲子さん(吹田東高)。来年度からは広く高校生が参加できるコンテストにしています。

短期大学プレゼンテーションコンテスト



〔12月5日(木) 2号館地下1階02教室〕

ゼミナールでの日ごろの研究成果を発表する場として、経営実務科を中心に開催されたコンテストは5組14人の参加があり、環境問題などを題材に見事なITリテラシー(パソコンやインターネットを使い情報を活用する能力)が発揮されました。実力が伯仲する中、優勝は経営実務科 和田ちづるさん(タイトルは「広告の歴史と効果について」)、2位は経営実務科 西田沙喜さん、3位は国際文化学科 市居ゼミナール(高橋裕子さん・村田麻樹さん・山崎実穂さん・野口晃代さん・浜田有季菜さん)の皆さんでした。来場していただいた多くのかたがたのご支持に応え、さらなる飛躍を期待いたします。

イルミネーション



〔12月2日(月)~12月25日(水)〕

「気軽にキャンパスに立ち寄っていただきたい。」という思いのもと、イルミネーションの点灯を行いました。アーチ型にきらめく光の中で、オープンカフェや混声合唱団によるミニコンサートを開催するなど、在学生はもちろんのこと、本学に訪れた人もキャンパスでロマンチックな冬の夜を過ごしました。

Year End Party



〔12月13日(金) K.M. 36BANCHI〕

国際交流の一環として、Year End Party (外国人留学生と在学生の交歓会)を開催しました。有志の学生グループが内容を企画・準備をし、パーティーの進行も行いました。ゲームを交えた立食形式のパーティーは大変盛り上がり、留学生と在学生が互いに交流を深める場となりました。

2002 フェニックス フェスティバル

~Early Christmas Crystal Concert
-Jazz At The Phoenix~-



〔12月12日(木) 5号館地下2階アトリウム〕

2002年の最後を飾る、クリスマスコンサートを開催しました。人気上昇中のヴォーカル&フリューゲル・ホーン奏者のTOKU氏と、世界の名トランパッター 日野皓正氏との夢のセッションで、エネルギッシュな演奏に会場は熱気に包まれました。また、混声合唱団がクリスマスソングで会場に訪れたかたがたを見送るなど、最後までコンサートの余韻を楽しんでいたようです。

庶務課

卒業式

3月20日(木)

I部 10:00開式	大 学	流通科学部・経営科学部・法学部・外国語学部
	大 学院	商学研究科・法学研究科
II部 11:30開式	大 学	経済学部・国際学部
	大 学院	経済学研究科・国際学研究科
	短期大学	経営実務科・国際文化学科

場 所：体育館 (保護者の皆様もご出席いただけます)



学生課

謝恩パーティー

3月20日(木) 17:00開宴

会 場：リーガロイヤルホテル(大阪) 光琳の間

〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3番68号 TEL 06-6448-1121

対 象：卒業生(平成14年度)



就職センター

2月19日(水)から大学3年次生・短大1年次生を対象に「学内会社説明会」「学内公務員説明会」を開催しています。学内で行う合同セミナーで、今年は約200社の企業に参加いただいています。本学の学生を採用したいと参加していただいている企業ばかりですから、業界研究・企業研究のためだけではなく、人事採用担当者と懇意になる機会です。事実、これをきっかけに内定に至った先輩方も数多くいます。3月4日(火)まで開催していますので、積極的に参加してください。

いよいよ大学3年次生・短大1年次生の就職活動が始まりました。企業へのエントリー・会社訪問・業界研究・履歴書の記入など、初めてのことで戸惑うことも多いかもしれませんが、ビジネスマナーを守りながら積極的にチャレンジしてください。また、卒業年次生で進路の決まっていない学生は、個別相談(随時)や模擬面接(要予約)を行っていますので、ぜひ就職センターを訪ねてください。

TIMETABLE

3月1日(土) 卒業発表(大学・短期大学)

後期追試験・再試験受験申し込み

(大学・短期大学)〔至3日(月)〕

5日(水) 後期追試験・再試験(大学)〔至8日(土)〕

6日(木) 後期追試験・再試験(短期大学)〔至8日(土)〕

13日(木) 後期追試験・再試験合格発表

(大学・短期大学 卒業年次生)

20日(木) 卒業式(共通)

25日(火) 前期オリエンテーション(大学)〔至4月9日(水)〕

29日(土) オリエンテーション(大学院)〔至4月9日(水)〕

31日(月) 前期オリエンテーション(短期大学)〔至4月9日(水)〕

学年終わり(共通)

4月1日(火) 学年始め(共通)

履修登録締切(大学4年次生以上)

2日(水) 履修登録締切(大学3年次生)

3日(木) 履修登録締切(大学2年次生・短期大学2年次生以上)

4日(金) 入学式(共通)

オリエンテーション(大学院1年次生)〔至9日(水)〕

5日(土) 前期オリエンテーション(短期大学1年次生)〔至9日(水)〕

9日(水) スクールボランティア説明会(大学・短期大学)

10日(木) 前期授業開始(共通)

16日(水) 履修訂正願提出締切(短期大学)

17日(木) 履修訂正願提出締切(大学)

30日(水) 年間一括・前期分学費納付期限(共通)